

あやべ 市議会だより

AyabeCity
Assembly
News Report

2017年(平成29年)
5月発行

No.117

発行/綾部市議会 綾部市若竹町8の1 綾部市議会事務局 TEL・FAX (0773)42-1259

E-mail/gikaijimukyoku@city.ayabe.lg.jp ★ホームページのアクセスは、検索画面で を入力してクリック!



里山交流センター「森もりホール」竣工

3月定例会 平成29年度当初予算を可決

予算審査の内容……………	2	代表質問・一般質問……………	8
委員会の審査内容……………	2	6月定例会の日程予定……………	13
討論……………	5	日曜議会の報告……………	13
議決結果の一覧……………	6	次世代からのメッセージ……………	14

平成29年3月定例会を2月27日から3月22日までの24日間の会期で開催しました。

本定例会では、市長から提案された議案47件と議会から提案された議案2件を審議しました。議案は、いずれも原案のとおり可決・同意したほか、請願3件について審査しました。

上程された議案は、3つの常任委員会に付託され、審査しました。その内容は次のとおりです。

予算決算委員会

付託された24件（当初予算13件、補正予算11件）は、原案のとおり可決

●雪害対策の補正予算を即日採決

予算決算委員会は、3月定例会初日の2月27日に、早期復旧が必要な雪害に対する補正予算案の審議を行い、即日採決しました。

また、3月8日の総括質疑では、市政全般にわたっての市の考えについて、15人の委員から35件の質疑がありました。

3月13日から16日までの4日間は、当初予算案と補正予算案の審議を行いました。

●平成29年度当初予算

一般会計の予算規模は、163億4818万円（前年度対比3.9%減）の予算が編成されています。

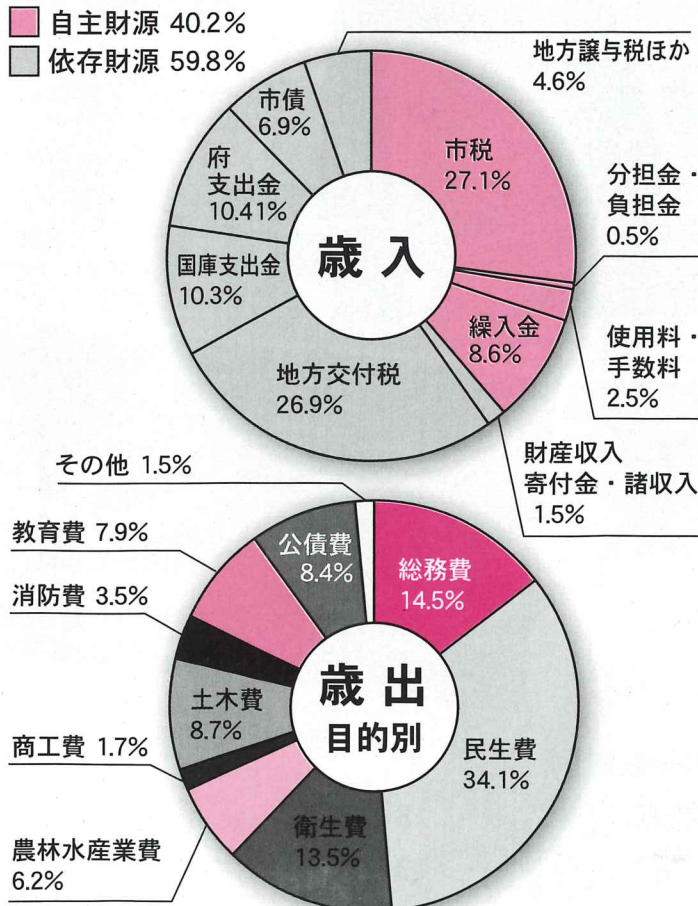
これに特別会計などを合わせた全13会計の総額は、385億3837万円（前年度対比5.7%減）となっています。

●平成28年度補正予算

一般会計の補正額は、3億950万円の追加で、特別会計など10会計の補正額を合わせると、全11会計で、総額1億472万円の追加となりました。

平成29年度歳入歳出の状況（一般会計）

〈歳入・歳出〉163億4818万円



平成29年度当初予算の主なもの

●一般会計予算

前年度対比3.9%減の163億4818万円

- 地域密着型サービス等整備助成事業費 (1億3231万円)
特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護事業所の整備を支援する
- ファミリー・サポート・センター事業費 (284万円)
会員相互の育児援助活動制度創設により子育てを支援する
- 物部保育園整備事業費 (4830万円)
物部保育園の保育環境を充実する
- 野生鳥獣被害総合対策事業費 (4127万円)
有害鳥獣の駆除に取り組む
- 住みたくなる綾部留学プロジェクト事業費 (1006万円)
新たな定住促進施策に取り組む
- リサイクル施設整備事業費 (2億4540万円)
施設を整備し、リサイクルの推進を図る
- 上林出張所(仮称)整備事業費 (501万円)
現消防署上林分遣所を24時間体制により安全・安心に努める
- 給食室整備事業費 (1億5580万円)
綾部中学校の給食室の整備を行う

平成28年度補正予算の主なもの

- 大雪により被害を受けた農業用施設の早期復旧に対する経費 (817万円)
- 市内全校での完全給食実施に向けた給食室整備事業費 (9174万円)
- 市民センター及び武道館の機能を統合した社会体育施設整備事業費 (3億8344万円)

平成28年度補正と一体的な予算編成

—平成29年度当初予算・平成28年度補正予算を可決—

■審査の結果

平成29年度一般会計の1議案は賛成多数となりましたが、これらを除く23議案は全員賛成で可決となりました。(雪害に対する補正予算は、2月27日に全員賛成で可決)

なお、本会議での採決に際しては、賛成多数となった議案に対し、堀口達也議員から反対、波多野文義議員から賛成の立場で討論がありました。(5ページに要旨を掲載)

委員会審査で出された主な意見は以下のとおりです。

■一般会計

- 次世代に向けた子育て・教育環境の整備など、未来への種まきをするとともに、将来にわたって住み続けられるまちづくりの予算編成に対し評価する。
- あやべ応援寄付事業については、応援寄付制度の趣旨を逸脱することなく、寄付目当ての謝礼品にならぬよう注意すること。また特別市民制度との区分を明確にされたい。
- 水源の里活性化事業の拡充を評価する。条例期限を5年から10年に延長し、水源の里のさらなる活性化に向けた対応を期待する。
- 運転免許証の返納者への対応やバス停までの輸送手段などの整備について研究・検討されたい。
- 人権教育は社会生活を営む上で、市民にとっても重要課題である。最低限の人権啓発推進事業は必要であり継続を願う。
- 綾部会館などで行われている隣保管事業については、教育委員会が行う社会教育や公民館活動に統合して、廃止することを求める。
- ファミリー・サポート・センター事業の実施に当たっては、保育事故が発生することがないように、万全な対応を期されたい。
- 介護福祉士養成支援事業の拡充を評価する。PRに努められたい。
- 予防接種の接種率を上げるとともに、人間ドック、健診の受診率を上げるための啓発強化をされたい。
- 雑紙回収の取り組みを評価する。古紙回収用保管庫設置費補助金のPRと保管庫の設置を増やすこと。
- 古道の再生は、森林に親しむことができる。森林環境税のみならず、林業振興の一環として今後も継続を願う。
- 有害鳥獣被害対策において、ニホンザル被害対策に新規事業を取り入れるなどの努力を評価するとともに、被害が軽減することを期待する。引き続き国・府へ強く要望されたい。
- 商店街等活性化事業費補助金について、市内の商業振興組合が活性化できるよう、ハード、ソフト両面でのさらなる支援を検討されたい。
- 道路整備事業の予算拡充を評価する。生活道路は広い市域に分散して暮らす綾部市民のライフラインであり、橋りょうを含む市道の整備を進められたい。

- 24時間体制に向けた消防署上林出張所の整備事業を評価する。市街地から遠く、高齢化の進む東部地域における市民の安全・安心の大きな向上となる。今後も消防力の強化を目指すとともに、さらなる安全・安心の向上に努められたい。
- 中学校の完全給食に向けて、念願であった綾部中学校、八田中学校の給食調理室工事費の計上、また、栄養士の中学校単位の配置を評価する。地産地消を考慮した食育に努力されたい。
- 小学校英語教育推進リーダー養成事業を評価する。平成32年の英語教科化開始までに、各小学校に推進リーダーを配置できる体制の構築を要望する。

■国民健康保険特別会計

- 国保世帯所得に対して保険料が高く支払いが困難であり、受診抑制も考えられる。国に対して国庫負担を増やすことを強く求めること。

■介護保険特別会計

- 制度改正で要支援1・2は介護保険から切り離され、市の総合事業に移行する。事業所や利用者の声を聴き、サービス低下と介護度の悪化につながらぬよう十分配慮されたい。

■後期高齢者医療特別会計

- 特例軽減措置による影響は、1200万円の新たな負担を市民に強いることになる。国に対して中止を求めること。

■下水道事業特別会計

- 古川樋門への排水ポンプ車の設置、雨水ポンプ場の設計業務委託を評価する。大型ポンプ設置に向けたさらなる働きかけを願う。また、由良川右岸の公共下水道着手を評価するとともに、一日も早い施工を要望する。

■病院事業会計

- 引き続き、医師確保に努められたい。
- 透析病床の増床を評価する。患者の声を反映し、さらに充実されたい。

総務教育建設委員会

付託された10議案は、原案のとおり可決

●市税条例等が改正されます

地方税法等の一部改正に伴い、個人市民税の医療費控除の特例の創設や住宅ローン控除の延長等、条例の改正を行うものです。

質疑の中で、「医療費控除を受ける際、従来の制度と特例の制度ではどちらの利用が多いと予想されるか」との質問に対し、「現状では予測できないが、より有利な方を選んでいただきたい」との答弁がありました。

意見では、「法人市民税の一部を、国税として地方交付税の原資とする仕組みが創設されたが、しっかり交付税を確保されたい」とありました。

採決の結果、全員賛成で可決となりました。

●市道路4路線が認定及び変更されます

施福寺旧府道線、以久田野線、井倉石風呂線の3路線について、京都府からの移管及び自治会からの申請により認定し、栗沢線が栗

沢大野線となり延長の変更をしようとするものです。

質疑の中で、「以久田野線について、延伸の計画はどうなっているのか」との質問に対し、「費用対効果等から総合的に判断し、中止した」との答弁がありました。

採決の結果、全員賛成で可決となりました。

その他8議案について審査を行い、採決の結果、全員賛成で可決となりました。



市道認定の現地調査

産業厚生環境委員会

付託された12議案は、原案のとおり可決

●水源の里条例がさらに10年間延長されます

平成19年度に施行された水源の里条例が、時限をむかえ失効するに当たり、これまでの取り組みや成果を踏まえ、さらに10年間延長されます。

質疑の中で、「10年後を見据え、集落の取り組みの継続性を見通しは」との質問に対し、「連携をキーワードに、これまでの集落単位から集落同志の連携などに力を入れたい」との答弁がありました。

意見では、「市内特産物について、市としての品質保証体制確立に向けた検討を願いたい」とありました。

採決の結果、全員賛成で可決となりました。

●介護福祉士育成修学資金の貸与額の上限が引き上げられます

平成27年度から介護福祉士の入学資金貸与事業に取り組んでいるが現在まで実績はなく、今回、利用促進を図るため、貸与額の上限を60万円から100万円に引き上げようとするものです。

質疑の中で、「100万円に上げると利用があると考えているのか。PRにも問題があるのではないか」との質問に対し、「近隣市も100万円であり同じ基準にした。PRについては、各関係機関と連携を図りお願いするなど、努力をしている」との答弁がありました。

採決の結果、全員賛成で可決となりました。

その他10議案について審査を行い、採決の結果、全員賛成で可決となりました。

請願審査

- 高浜原発の再稼働前に避難計画の実効性確保と住民説明会を求める請願書
- 関西電力高浜3・4号機再稼働反対に関する請願書
- 関西電力高浜1・2号機美浜3号機の廃炉に関する請願書

同意した人事案件

●人権擁護委員の候補者の推薦

- 渡邊博幸さん(睦寄町) = 新
- 竹内早智子さん(栗町) = 新

反対

日本共産党
堀口達也

長年の住民要望であった上林での消防24時間体制や綾部・八田中学校の給食調理室の建設などは喜びたい。ところで市民の暮らしはどうか。給与所得者の年平均所得額は2000年（平成12年）から15年間で約50万円減少。市民の暮らしと仕事の応援、格差と貧困対策が必要だ。高浜原発2号機のクレーン倒壊は重大事故だ。関電と元請け会社の責任は重大。今後このようなことがないよう対策を強く求める。また、避難体制や計画が十分でない。原発再稼働はやめ、廃炉を求める。

市が行う「同和問題を始めたとした人権教育」の結果、「部落問題での理解は高いが、女性・外国人等に対する意識が課題」と指摘されている。直ちに改めること。

賛成

創政会
波多野文義

山崎市長2期目最後の当初予算は「住みたくなくなるまちづくり」から「住み続けられるまちづくり」を目指し、日ごろの多くの課題を見える化し、さらに市民の切実な要望や議員提案を精査し、予算の中に形として取り入れられた市民の思いが詰まった予算編成になり、高く評価する。

特に、安全・安心への予算では、消防署上林出張所整備事業や黒谷川の整備。教育への予算では、市内全校の完全給食実施に向けての給食室整備。また、新しい切り口での定住促進策として、住みたくなくなる綾部留学プロジェクトの取り組み。その他、市民生活に欠かせない事業予算が計上されている。執行に当たっては、さらなる知恵と工夫により、実りある事業になることを期待する。

議第21号 一般会計予算について

討論

東日本大震災・福島原発事故から6年が経過したが、いまでも多くの避難者が不自由な生活を強いられている。また事故原因もわからず、原子炉内部の状況も、不明なままの状態が続いている。原発が一度事故を起こせば取り返しのつかない事態を招くことは証明済みである。

請願1号は、原発再稼働前に避難計画の実効性確保と住民説明会を求めるもの。3・4号機の安全性は確保されていないし、民意は「原発いらぬ」が過半数を超えている。請願2号は3・4号機の再稼働反対を求めるもの。規制委員会の「基準地震動」の設定そのものが低く、活断層の動きを正確に見ていない。請願3号は老朽化した原発は廃炉にすることを求めるもの。市民の安全を守るために賛成。

請願1号

高浜原発の再稼働前に避難計画の実効性確保と住民説明会を求める請願書

請願2号

関西電力高浜3・4号機再稼働反対に関する請願書

請願3号

関西電力高浜1・2号機美浜3号機の廃炉に関する請願書

請願1号については、国の防災会議で決定し、国・広域自治体で訓練等が重ねられている。脱原発の鹿児島県知事も現場確認等行い、再稼働を容認している。

請願2号の主旨は原因が未究明のため反対とのことであるが、この大変不幸な事故の原因は天津波により非常用電源を喪失したことによるもので、国際原子力機関や福島原発訴訟の前橋地裁判決も津波によると結論付けている。

請願3号は事故を教訓にした厳しい規制基準のため、適合しない原発は事業者側が廃炉判断をしている。燃料のない日本で原発停止後CO2が2割増加し地球の環境破壊が危惧される。原子力技術も進歩する。規制基準に適合した原発は活用しながら、徐々に減らしていくべきである。

創政会
荒木敏文

日本共産党
吉崎久

賛成

《議決(可決・同意)結果の一覧》

件名	結果	民政会		創政会		共産党		新国会		公明党	無所属				
		相根一雄	種清喜之	高倉武夫	吉崎進	松本幸子	波多野文義	荒木敏文	高橋輝	堀口達也	吉崎久	井田佳代子	久木康弘	村上宣弘	片岡英晃
市長提案の議案															
議第1号	個人情報保護条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第2号	行政手続における特定の個人を認識するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第3号	水源の里条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第4号	職員定数条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第5号	一般職員の育児休業等に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第6号	特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第7号	一般職職員の給与に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第8号	職員の特殊勤務手当に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第9号	市税条例等の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第10号	市立中学校設置条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第11号	市立幼稚園保育料等に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第12号	保育及び教育の実施に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第13号	国民健康保険条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第14号	介護保険条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第15号	指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第16号	指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第17号	介護福祉士育成修学資金の貸与に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第18号	中小企業振興条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第19号	二王公園の設置及び管理に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第20号	簡易水道条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第45号	市道路線の認定及び変更について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第46号	国民健康保険条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
平成29年度当初予算															
議第21号	一般会計予算	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○				
議第22号	市立診療所等特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第23号	農林業者労働災害共済特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第24号	国民健康保険特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第25号	介護保険特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第26号	後期高齢者医療特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第27号	駐車場特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第28号	簡易水道特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第29号	下水道事業特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第30号	地域排水事業特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第31号	住宅・工業団地事業特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第32号	上水道事業会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第33号	病院事業会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
平成28年度補正予算															
議第34号	一般会計補正予算(第5号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第35号	一般会計補正予算(第6号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第36号	国民健康保険特別会計補正予算(第3号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
議第37号	介護保険特別会計補正予算(第3号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				

件名	結果	民政会		創政会		共産党		新政会		公明党	無所属					
		相根 一雄	種清 喜之	高倉 武夫	吉崎 進	松本 幸子	波多野文義	荒木 敏文	高橋 輝	堀口 達也	搦頭久美子	吉崎 久	井田佳代子	久木 康弘	村上 宣弘	片岡 英晃
議第38号	後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）			○				○		○	○	○				
議第39号	簡易水道特別会計補正予算（第2号）			○				○		○	○	○				
議第40号	下水道事業特別会計補正予算（第3号）			○				○		○	○	○				
議第41号	地域排水事業特別会計補正予算（第3号）			○				○		○	○	○				
議第42号	住宅・工業団地事業特別会計補正予算（第2号）			○				○		○	○	○				
議第43号	上下水道事業会計補正予算（第2号）			○				○		○	○	○				
議第44号	病院事業会計補正予算（第2号）			○				○		○	○	○				
人事案件																
諮第1号	人権擁護委員の候補者の推薦について			○				○		○	○	○				
議会提案の議案																
議会第1号	市議政務活動費の交付に関する条例の一部改正について			○				○		○	○	○				
議会第2号	市議会基本条例の一部改正について			○				○		○	○	○				
請願																
請願第1号	高浜原発の再稼働前に避難計画の実効性確保と住民説明会を求める請願書			×				○		×	×	×				
請願第2号	関西電力高浜3・4号機再稼働反対に関する請願書			×				○		○	○	×				
請願第3号	関西電力高浜1・2号機美浜3号機の廃炉に関する請願書			×				○		○	×	×				

※議長は採決に加わっていません。

委員会活動

大雪により壊れた茶棚、 パイプハウスを現地調査

産業厚生環境委員会

産業厚生環境委員会は2月20日に大雪により壊れた茶棚、パイプハウスの現地調査をしました。

1月14日からの大雪によりハウス83棟、木造堆肥舎1棟、茶用被覆棚4カ所、木造牛舎1カ所に被害が発生しました。特にパイプハウスでは、西部地区で多くの被害があり、茶棚では、2.34haの被害でした。それぞれ被災現場で、代表者の方に状況説明や今後についてお話を聞き、状況確認をしました。



市民目線に立った、 議会改革を推進

議会運営委員会

議会運営委員会では1月31日から2月2日まで人口規模が綾部市と同程度で議会改革が進んでいる4カ所の市議会（徳島県小松島市、香川県さぬき市、香川県観音寺市、岡山県井原市）を訪問し、議会運営や議会改革についての視察研修を行いました。特に小松島市は人口4万人弱で、議員定数は平成23年から17名、政治倫理条例は平成21年に制定され、平成24年からはペーパーレスに向けてタブレットの導入、平成25年からは通年議会制を導入するなど学ぶところが多くありました。議会改革は市民のための改革になるよう、進めていく必要があります。



代表質問・一般質問

新しく取り込まれる紙類の回収成果を上げるために

日本共産党 井田 佳代子

Q ごみの減量化、資源化を進めることは環境問題の課題であり、ごみ処理費用の削減にもつながることになる。29年度から新たな取り組みで、雑紙回収が行われるが、市民への周知はどのように行われるのか。

A 燃やして処理するごみの中には、約40%の紙類が入っており、これを資源化する「あやべ古紙再生プロジェクト」を自治会連合会長の概要説明でスタートし、12地区で行われる自治会長会へ職員が出向き説明をする。また、広報ねっと、メールマガジンなどを活用し、広く市民に周知していきたい。

Q このプロジェクトを成功させるためには、自治会役員への説明だけでなく、自治会へ足を運び直接市民に説明し、協力依頼をする必要があるのではないかと。

A 現在の計画では、自治会連合会会長・12地区の自治会長会で概要説明を行う予定だが、各自治会会員の協力が

非常に重要と考える。積極的、かつ柔軟に対応していきたい。

Q 家庭から出される、燃やして処理するごみの総量の、前年度比5%減を目標とされてきたが、「あやべ古紙再生プロジェクト」の取り組みではどんな目標を持たれるのか。

A まずは第2次環境基本計画による、前年度比5%の減量を目指して、リサイクル推進員、市民の皆さんとの協働で本プロジェクトによる取り組みを推進していきたい。



加熱処理してできたRDF

山崎市政2期目、最終年度の予算編成について問う

新政会 久木 康弘

Q 2期目のスタート年は、「住んでよかった」さらに「住みたくなるまち」などの成長戦略を掲げ、積極果敢な予算編成となり、3年目はさらに総合計画の後期基本計画のスタート年として、全会計で400億円を超える予算編成規模となった。山崎市政2期目の3年間を振り返り、公約及び市政運営に対する到達点をどのように捉えているのか。

A 特に喫緊の課題である人口減少の対応策として定住促進、交流促進等を重点的に推進し、現在のところ社会動態がプラスに転じている。安全・安心の観点から市立病院の第4次整備、子どもの医療費の無料化、介護施設、障害者施設の充実、観光拠点施設整備、生活インフラ整備整備、小中一貫校整備等、現地現場主義の信念のもと実現の手応えを感じている。

Q 市長の2期目の最終年度における仕上げの予算編成に

ついて「まちを持続的に発展させるために、将来の種まきとして次世代への予算を計上した」とマスコミに報道されたが、改めて本年度、重点配分されたキーワード「医・職・住」「教育」「情報発信」等の予算編成については。

A 「住み続けられる」3つ目の戦略として、「医」は、市立病院の機能確保、介護施設整備等。「職」は、農林商工の振興、観光振興等。「住」は、公共下水道整備、防災対策、生活道路整備、橋りょうの長寿命化対策等。「教育・情報発信」は、中学生の海外派遣、完全給食の実施等。さらに特別市民制度による綾部の応援団の拡大等、オール綾部の体制で取り組む。



飛び立て！中学生海外派遣事業

3月5日から7日の3日間にわたって14人の議員が市政全般について質問を行いました。なお、5日は「日曜議会」を開催し、各会派の代表4人が質問を行いました。ここでは代表質問と一般質問の要旨を掲載します。(掲載は登壇順)

人口減少に歯止めを

民政会 相根 一雄

Q 山崎市政2期8年の最終年度に当たり、意気込みと市政方針はいかがか。

A 財政状況は厳しいが、良い風を逃がさず、しっかりと捉え、定住促進、企業誘致を進め、住み続けられるまちづくりに努めていきたい。

Q 綾部の未来を創生する日本海国土軸の推進は、京都北部の重要課題である。中でも山陰新幹線の推進と山陰線綾部園部間の複線化促進についての考えは。

A 今後も北部地域活性化に向け、山陰新幹線の整備計画への格上げや山陰線の複線化などの利便性向上のため、関係市町と連携し、要望活動を行っていく。

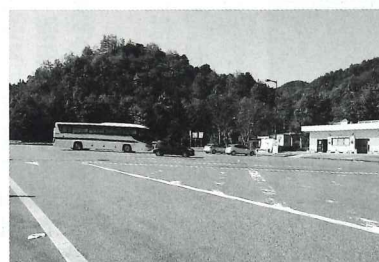
Q 綾部PA（パーキングエリア）にスマートIC（インターチェンジ）を設置し、地域の利便性、活性化を図ることが地方創生には重要と考えるがいかがか。

A 現時点では困難であるが、関係機関と連携を図り、ス

スマートICの整備に関して研究を進めたい。

Q 地域振興として水源の里条例や小さな拠点制度は、市のクラスター戦略と合致する手法である。市の考えは。

A 本市では、12地区の特性を生かして輝くクラスター構想を提唱しており、今後も、それぞれの地区において小さな拠点の形成や将来計画を検討する話し合いが行われることに期待している。



舞鶴若狭自動車道綾部パーキングエリア

安全・安心で心豊かに暮らせるために

創政会 波多野 文義

Q 上林住民の長年の悲願であった、消防署上林分遣所の24時間体制に向けての予算が計上されているが、いつから実施するのか。また、仮称ではあるが上林分遣所から上林出張所に名称変更されることにより、人員等はどのように変わるのか。

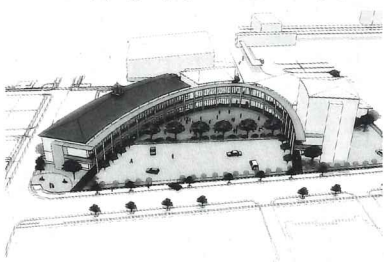
A 上林分遣所を出張所に格上げし、本年10月1日から24時間体制に移行する予定である。体制強化を図るため管理職の所長を配置し、昼間は救命救急士を含む4人、夜間は3人が常駐し、救急対応に当たることによって安全・安心を確保する。

Q 駅北の北部産業創造センターの隣接地に計画されている公共施設として、時代に合った機能を有する図書館と子どもの居場所を駅周辺につくることは、活性化に寄与すると思われる。多くの市民がくつろげ、会話が生まれ、交流ができる空間づくりが必要では。

A 商業施設や公共施設の整備計画を検討しているが、現段階では発表できる状況でない。提案のあった図書館機能、乳幼児から高齢者まですべての市民に親しまれ、気楽に利用できるような空間を整備するということもひとつの選択肢として、今後検討していきたい。

Q コミュニティナースを地域おこし協力隊として受け入れ、看護資格を生かした地域でのコミュニティや健康づくりなどの支援をするところがあるが、主な目的は。

A 都市部で働く看護師を一定期間受入れ、その後資格を生かして移住してもらおう定住促進と医療人材として地域の健康づくりやコミュニティづくりに貢献すること。



(仮称)府北部産業創造センター

民政会 松本幸子

本市でも対象者を問わない地域包括支援が必要では
婚活事業の内容は

Q 少子高齢化が進む中、高齢者世帯であっても、児童や障害者の複合的な問題を抱えている家庭も少なくない。一部分だけでなく全体を見るといふ包括的相談支援が本市でも必要ではないか。

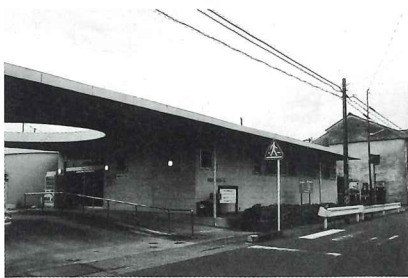
A 市では現在対象によって相談窓口が異なるが、相互に連携し事業を実施している。さまざまな分野の課題が絡み合い複雑化する中、対象者ごとの縦割りのシステムでは対応が困難な状況もある。今後国の制度改正の動向に注視していきたい。

Q 医療・介護を進めていく上で、病状の安定、生活の安定には服薬が大切だが、高齢者には服薬管理が困難なケースがある。薬剤師にも在宅医療への意識をもってもらうため、協力を求められないか。

A 連携会議には、薬剤師会からの参加もある。服薬管理ができていないケースもあると認識している。地域ケア会議に専門職として参加を得ることは大変意義がある。平成29年度に向け働きかけていきたい。

Q 平成27年国勢調査で、本市の30代男性は、全国平均よりも未婚率が高い。婚活事業に力と考えるが、支援策は。

A 結婚活動を行う独身男女に出会いの場を提供するための交流会や結婚を推進する事業を行う団体に対して補助金制度がある。



地域包括支援センター（川糸町）

創政会 荒木敏文

特産綾部茶の支援充実と情報発信を
上林消防24時間体制の英断とその効果は

Q 1月の大雪で綾部市の茶園が大きな被害を受けたが、市はこれまでどのような茶業への支援策を行ってきたのか。さらなる支援の充実と市民や市外の方に向けて、良質茶の産地である「お茶の綾部」の情報発信をもっとする必要があると思うが、市の考えは。

A 作業の省力化に向けて機械の導入や茶の高品質化に向けての被覆棚の整備に対し、補助を行っているほか、樹勢回復支援や茶品評会出品奨励費補助の拡充を行っている。情報発信については、あやべ特産館の綾茶カフェ、特別市民制度、市勢要覧、観光パンフ、その他の情報ツールを使い、今後一層力を入れ、綾部茶の魅力を発信していきたい。

Q 平成25年度から毎年職員定数条例を改正し、消防職の計画的増員を図り、市長の英断により、ついに上林分遣所を出張所として24時間体制にすることになった。上林地域の市民の安全・安心が著しく向上することになるがその効果は。

A 10月には増員体制が整い24時間体制にできる。8時30分から17時15分までは3人体制から救命士2人を含む4人体制になり、22時以降は無人の体制から17時15分以降翌朝8時30分まで3人体制に拡充となり、消防力が向上する。



豊かに広がる茶園

民政会 高倉武夫

駅南地域の活性化策は
里山交流研修センター整備を期に委託先に求めるところは

Q チャレンジショップ事業の成果は。また、行政として駅南をどのようなまちに誘導されようとしているのか。

A 平成28年度までに33件の支援実績である。駅南は綾部市の中心商店街が存在する地域である。今後も商工会議所、商店街組織と連携を図り、活性化に取り組む。

Q まちづくりは、行政の思いと地元の方々の思いが一致することが重要。事業者や住民からの改革案を求めています。

A 今後も商業活性化の主体者である商店街関係者等の取り組みを商工会議所等の関係機関と連携し、サポートしていく。変わりゆく市街地を見るとき「南北の格差」が心配だが考えはどうか。

A 商店街の街並みを維持することは重要。一方で、空き地等が利便性の高い住宅地として活用されることも必要なこと。

Q 里山交流研修センター改修工事はいつ完了するのか。2億円近い投資額であるが、その投資効果をどのように求めているのか。

A 平成28年度内には完成し、4月8日に竣工式を行う予定。関係団体との連携強化や地域住民の憩いの場、また、地域資源を活用した交流の場となるよう、指定管理者である里山ねつとの運営体制についても検討いただきたいと考えている。



完成した森もりホール

日本共産党 吉崎 久

消防上林分遣所24時間体制発足は長年の要望に応えたもの 黒谷川改修は安全確保の一歩

Q 消防上林分遣所の施設整備の内容は。改修を計画している。

A 仮眠室、トイレ、事務所、空調設備のいきいきセンターやあやバス駐車場を含めて、土地・建物を借用ではなく、市が購入して管理してはどうか。その検討はしたことはあるか。

Q 敷地については、土地を取得する方向で事業者と交渉する予定である。位置的にも非常に効果的と考えている。建物についても検討したい。

A 救急搬送体制については、原則として綾部市立病院を経由することになっているが、必要な場合は舞鶴市へ直接搬送することはできないか。

Q 脳血管障害に起因する脳神経疾患の場合、救急隊の観察結果や家族の希望など総合的に判断して、直送できるような体制を整えた。

A 黒谷川は集中豪雨のたびに市道が冠水し、通行止めを余儀なくされてしまうが、この改修計画はどのようなものか。また、府からの財政的支援策はあるのか。

Q 地元とも協議し、実施可能な浸水軽減対策を考えている。和紙会館前の井堰撤去と河床を下げる工事を計画している。

A また、府からの支援は検討したが困難である。



上林分遣所

民政会 種清喜之

綾部市の新たな観光戦略を (仮称) 新市民センターの避難所機能は

Q 今後さらなる増大が見込まれるインバウンド(訪日外国人観光客)等に対応し、観光を産業として確立するためには綾部の魅力を生かし、ネットワーク化や受入体制を構築した新たな観光スタイルを官民連携で確立するべきと考えるが。

A 官民連携を通じ本市に見合ったネットワーク構築による観光スタイル確立は大切であると認識している。海の京都、森の京都事業のワークショップや関係事業者等の意見もうかがう中でしっかりと検討していきたい。

Q (仮称) 新市民センターは、大災害時にまちなかエリアにおいて一定期間避難生活を送る収容避難所のひとつに指定されており、空調設備導入をはじめ避難所としての機能を充実されることを評価する。避難所としての機能の詳細と、綾部市にとって身近な脅威である水害、内水への対策は。

A 十分な耐震性を備え、空調設備、バリアフリー化、エレベーター、多機能トイレ、シャワー室、太陽光パネルと蓄電池、資器材保管庫やマンホールトイレを設置する。また、建設予定地は百年に一度の由良川洪水浸水想定区域ではないが、電気設備等を3階に配置し、万一浸水しても2階に避難できるように対策する。



平成31年度末に完成予定の(仮称)新市民センター

日本共産党 搦頭 久美子

学校の避難所機能を高めること

Q 災害時避難所となる学校体育館について、市内すべての小中学校を訪問・調査した結果、①圧倒的に和式トイレで洋式トイレが少ない。②狭くて段差があり車椅子では利用困難であった。避難所でトイレ利用できない弊害をどう考えるか。

A 避難所では水分摂取を控えて、脱水症、エコノミークラス症候群、慢性疾患の悪化などが考えられるため、トイレの確保管理は重要と考えている。

Q 二次災害防止のために誰もが利用できるトイレ確保が必要。今後の整備計画は。

A 改修計画は2校だが、避難所機能の確保という観点も踏まえ整備を進めたい。

Q 体育館以外に、調理実習室・和室・放送設備など、施設の災害時利用計画や運営マニュアルが必要と考える。また、災害時は停電を想定し、各学校に発電機等の設置が必要と考えるがどうか。

A 学校施設の利用計画は検討し、避難所運営マニュアルは作成したい。停電時は発電機4台、サークルライト6台を必要な避難所に配備する。

Q 学校の防災対策への国庫補助は。文部科学省の補助事業として、自家発電や井戸、屋外便所、太陽光発電、衛星電話など該当する。今後、財源の確保に努め、補助金の活用について検討したい。



小中学校は、ほとんどが和式トイレ

新政会 片岡英晃

東綾小・中一貫校にける思いは
小中一貫校の校舎を有効活用すべきでは

Q 平成29年度は、各中学校ブロックで特色ある小中一貫教育を今後さらに推進していく上で、礎となるような重要な1年になるのではないかと考える。平成29年度の小中一貫教育にける思いは。

A 平成29年度末までに各中学校ブロックの校風を明確化していく。そして、市教委と学校の現場の先生方が一体となり、各中学校ブロックでの新しい学校づくりのための取り組みを推進したい。

Q 東綾小・中学校は、校舎の改修工事も完了し、1月から小中学生が同じ校舎で生活している。いよいよ4月から施設一体型としてスタートする東綾小・中一貫校の今後をどのように考えているのか。

A 小学校1年生から中学校3年生までの9年間を通した組織的、系統的なキャリア教育に力を入れ、東綾小・中一貫校としての新たな校風づくりを推進していきたいと考えている。

Q 市として小中一貫校の校舎を、教育施設としての活用はもろろんのこと、地域おこしのツールとしてどのように活用していくかと考えているのか。

A 特色ある教育等の推進を基本に、学校を地域づくりの核として、地域の住民の参画や地域の特色を生かした事業を展開することが大切であると考えている。



小中学生が一緒に活動する様子

新政会 村上宣弘

綾部市図書館の改築、新築の考えは

Q 近年、児童の読書離れを想起させる環境変化が相次いでいると言われているが、本市の小学生・中学生の読書冊数は。

A 読書冊数はわからないが、不読率については小学6年で18・8%、中学3年で43・9%となっている。

Q 綾部市図書館の貸出冊数が年々減少してきているが、その原因は。

A 人口減少のほか近隣市に新図書館が開館したことも影響があると考えている。

Q 愛知県田原市図書館を視察したが、「元気はいたつ便」という事業がある。来館が困難な高齢者や障害のある方を対象に、高齢者福祉施設への訪問サービスと、団体貸出サービスからなるものであるが、本市では考えられないか。

A 高齢者に対する出張お話し会など実施しているが、先進事例なども参考にしながら、ニーズや効果を検証していきたい。

Q 図書館職員の努力は高く評価するが、図書館の改築または移転の考えはどうか。

A 現在の図書館は高い評価をいただいているが、ハード面で課題があることは認識しており、今後図書館のあり方をしっかり研究した上で、施設整備について検討していく必要があると考えている。



綾部市図書館

日本共産党 堀口達也

高浜原発、大型クレーン倒壊事故は人災
関西電力に再発防止策を

Q 1月20日に関西電力高浜原発で強風のため高さ105mの大型クレーンが倒壊し、使用済み核燃料を保管する建屋に激突する事故が起きた。この原因は強風時にクレーンを畳んで地上に設置させる対策がとられていなかったことだ。厳重に抗議し、改善を求めるべきではないか。

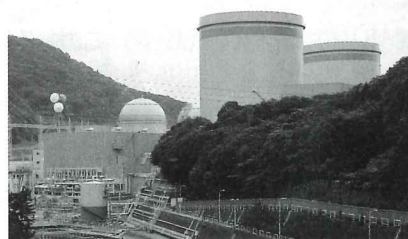
A 人的・初歩的ミスによる事故がこれまでも発生していることは、原発に対する関西電力の信頼が大きく損なわれることにつながる。原子力規制委員会も、関西電力が具体的な転倒防止策を要求していなかったと指摘している。市として関西電力にしっかりと求めていきたい。

Q 原発事故が起きた場合の避難には万全の策が必要。避難路の府道1号には土砂災害危険地帯と接している箇所が多くある。また、避難バスの確保も十分ではないか。

A 土砂災害等によって道路が寸断された場合は、協定を締結する国の実働組織に支援を要請する。バスの運転員は、府等に支援を要請する計画になっている。

Q 事故が起き、避難も確実にできないのであれば、原発再稼働にはただちに反対の表明をするべきではないか。

A 原発は最適なエネルギーではないが、暮らしや経済等への影響は大きい。



高浜原発1・2号機

無所属 塩見 麻理子

住み続けられる吉美地域づくり
安全・安心、土地の有効活用・働く場づくり・教育環境の充実を

- Q** 住み続けられる地域は、安全・安心が重要である。線引き廃止に伴う土地の有効活用には、農地法・農振法等の規制緩和の検討や沿道ゾーン（里・有岡町）については、公共下水整備が必要では。
- A** 安易に規制を解除・緩和すると問題があるが、今後研究・検討する。当該地域は、浄化槽の事業区域であり、今後由良川右岸整備も予定していることから、公共下水道事業の取り組みは難しいと考える。
- Q** 地域づくりには、働く場の確保が必要だが、工業団地の誘致の手法・状況は。また、地域で誘致の声を上げるとは。
- A** 工業団地の誘致は、官民一体となり取り組んでいる。自治会やまちづくり協議会などが地元の声をまとめ、提案・実施するという手法もある。
- Q** 綾部中学校ブロックの教育環境のさらなる充実を求めるうえで、期待の大きい綾部中学校の自校給食開始に伴う教育効果に対する考えは。また駅北の今後は、異世代の大きな「たまり場」になり得る。教育・文化・産業ゾーンにしては。
- A** 給食実施は、豊かな人間性を育むもの。教育効果を得られるよう最大限生かしたい。駅北には、さまざまな施設が集積するので、幼児から高齢の方々まで異世代の集いの場への可能性に期待している。



線引き廃止の説明会（里町公会堂）

平成29年6月定例会の

予 定

6月定例会は、6月13日から6月30日までの18日間の会期で予定しています。

- 6月13日(火) 本会議
(議案上程 人事案件採決)
- 19日(月) 請願受理締切り(正午)
- 20日(火)~22日(木) 一般質問
- 23日(金) 予算決算委員会(総括質疑)
- 26日(月) 総務教育建設委員会
- 27日(火) 産業厚生環境委員会
- 28日(水) 予算決算委員会
- 30日(金) 本会議(採決)



日曜議会の報告

3月5日に開催しました第19回日曜議会は延べ87人のみなさまにお越しいただきました。ありがとうございました。議会は開会中、いつでも傍聴できます。ぜひお越しください。

議会情報公開条例に基づく
公文書の開示実施状況

平成28年4月1日から平成29年3月31日までの公文書開示請求は1件でした。議会に関する情報公開については、議会事務局(電話42-1259)へお問い合わせください。

ライブ中継を行います

綾部市議会のホームページで6月定例会から本会議(議案上程・一般質問・採決など)のライブ中継を行います。

政務活動費の見直しを行いました

政務活動費の使途の透明性をさらに高めるため、条例の改正案を議会から提案し、採決の結果、全員賛成で可決しました。

<改正内容>

- 交付方法：前払から実績に基づく後払に変更
- 交付金額：議員一人当たり、年額20万円から18万円に変更

次世代からの メッセージ

山家モンキーズ (部員数19名)

昭和52年4月に山家地区の小学4年生以上の児童24人と指導者を集め立ち上げられました。その後、口上林ヤングビッキーズの閉部に伴い、平成12年から口上林地区の小学生も山家モンキーズに入部するようになり、現在に至ります。

自分の意思をしっかりと持てる人間になってほしいと、声に出してなんでも話し合うことをモットーにされています。

将来の夢・目標は？

- ・プロ野球選手。理由は、初めて山家モンキーズの練習に行ったら、ボールを投げるのが楽しかったからです。
- ・去年の6年生よりも、声、あいさつ、技術を上げることです。
- ・あたりまえのように、あいさつをする。
- ・スポーツ(野球)関係の仕事につくこと。
- ・菊池選手のように後ろにぞらさない野手。
- ・どんな場面でも、しっかりと打ったり、守ったりできる選手、最後まであきらめずにできる選手、みんなから信頼される選手。どんな打球でもチャレンジして取りに行ける選手。



チームのどんなところが好き？

- ・監督、コーチがアドバイスをくれたら、そのことを生かして試合や練習をしている。
- ・低学年同士で注意あっている。
- ・みんな、元気でやさしく、はげましてくれる。
- ・明るいところ
- ・切り替えが早いところ。
- ・チーム全員の仲が良いところ。
- ・みんながやさしく元気のあるところ。
- ・すごいところを言い合えるところ。
- ・全力でプレイできるところ。
- ・どんなことでも相談できることや、切り替えがしつかりできるところ。
- ・いつも前向きで笑顔なところ。
- ・みんなに声かけができて、仲が良いところ。
- ・一人ひとりが努力できる。
- ・6年生が9人いるところ。
- ・はげまし合えるところ。
- ・みんなで、声を出せるところ。
- ・きつく言ってしまうけれど相手が分かるまで、みんな協力して教えてあげられるところ。
- ・ノックなどの時ポイントを言い合える。
- ・いいプレイをした時は、ほめ合い、もっと自信がつく。
- ・一緒に笑いあえるところ。悪いところもしっかり主張できるところ。

- ・野球について、少しでもみんなの役に立てる。
- ・料理人、自分の店を持つ、料理人として有名になる。
- ・ピアニスト
みんなに聞いてもらって、みんなを喜ばせたい。
みんなに明るい曲を披露したい。
- ・獣医、野球がもっと上手になる。



取材を終えて

取材の始め、そして終わりでも、全員整列し、元気いっぱいあいさつをしてくれました。また、取材中もハキハキと元気よく答えてくれ、さすがスポーツ少年団、礼儀正しくて練習中も声を出し、いいプレイ、失敗しても互いにカバーしあい、チームワークが良くて仲がよいなと感じました。

これからも、野球を通して、何事も話し合うこと、声を出すこと、自分の意見をハッキリ言えること等、様々なことを学んでください、将来きっと役に立つと実感しています。燃える「山家モンキーズ」がんばれ!

編集 / 議会だより編集委員会

安藤 和明
吉崎 進
荒木 敏文
松本 幸子
片岡 英晃
井田佳代子
搦頭久美子
森 義美



紙面となるよう頑張ります。

前号まで掲載していた「次世代からのメッセージ」小学校編は、全小学校を紹介することができました。今回からは市内のスポーツ少年団にスポットを当て、順次掲載しますのでご期待ください。引き続き充実した

編集後記

3月議会は山崎市長2期目最後の予算編成であり、『住み続けられるまちづくり』を旨とした内容の議案も多く提出され、日々議員と理事者による熱い議論が交わされました。また、日曜議会には多くの方々に傍聴にお越しいただきありがとうございました。